



# 京都障害者雇用企業サポートセンター NEWS LETTER

## 障害者雇用、何から始めたらいい?…そんなとき 職場実習を受け入れてみませんか?

12月13日、京都府内の民間企業や公的機関等における平成28年の障害者雇用状況報告の集計結果が発表されました(裏面参照)。京都府の民間企業の障害者雇用率は2.02%となり、過去最高を更新しましたが、京都府では障害者雇用促進計画(京都はあとふるプラン)において2.2%を目標に掲げており、この達成に向け、さらに取り組みを進めていく必要があります。今号は、障害者雇用を進めるうえで企業にぜひご活用いただきたい「職場実習」について紹介します。

### ■ 職場実習とは

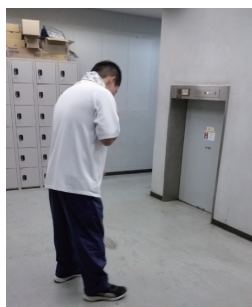
職場実習は、障害のある方が一定期間、実習生として企業で「働くこと」を体験する制度です。内容は一般事務から清掃、調理業務まで様々。企業内で仕事を体験することで、実習生に就職に必要な力を身につけてもらいます。

「障害者雇用を考えているが、どういった業務が適切かわからない」「受入環境をどのように整えるべき?」そんな悩みを持つ企業にとって、実習は障害のある方の特性や就業力を知り、業務の切出しや環境整備のきっかけとなる良い機会です。

### ■ 1日から始められる「はあとふる実習」、1ヶ月以上の「実践能力習得訓練コース」

京都ジョブパークの障害者就業支援コーナー「はあとふるコーナー」では「はあとふる実習」を行っています。通常は1~2週間程度ですが、1日でも可能。マッチングから実習開始までが速やかなため、企業にとって比較的気軽に行えるというメリットがあります。他に「実践能力習得訓練コース」もあります。職業能力開発促進法に基づき、京都府が各企業に委託して1~3ヶ月間実施する訓練の一つで、月60時間以上の訓練等が要件となります。実習生に職場体験を提供するだけの実施も可能。受入企業には謝金が支払われます。

実習中は必要に応じてはあとふるコーナーのジョブサポーターが付き添い、双方が安心して実習できるようサポートしています。また、実習中のケガや物損等については、賠償保険の範囲内で補償されます。



### ■ 企業の声を紹介しす

#### はあとふる実習(2週間)

実習生:知的障害のある10代男性 業務:清掃

社員の中には障害のある方と接するのが初めての者も多く、どのような作業ができるのか、どう指導すればいいのか戸惑いの声もあったが、休憩時間に積極的に会話をすることで互いに打ち解けていった。実習当初は何度か同じ内容を教えることがあったが、一度覚えたことは正確にできるようになり、仕事に対する一生懸命な姿勢がうかがえた。

実習終了時には、社員から「実習生へ細かな指示、心配りをした経験が、他業務でも細部に気を配る意識につながった。」等の声があり、業務改善への意識も高まった。

#### 実践能力習得訓練コース(3ヶ月)

実習生:精神障害のある30歳代男性 業務:金属加工

訓練開始時は緊張が強く、指導担当者とのやりとりも難しい場面がみられた。毎日振り返りの時間を設け、本人の思いを聞きながら関係づくりをした結果、コミュニケーションがスムーズになり、作業を覚えるスピードも上がって技術習得に集中できるようになった。

2ヶ月を過ぎた頃、表情が暗くミスが目立ったことがあったが、あらかじめ秋から冬にかけて調子を崩しやすいことを聞いていたため、周囲の対応を考えることができた。3ヶ月の訓練実施で数日から1週間の実習では現れにくい特性を見ることができ、雇用後の働く姿を具体的にイメージできて良かった。

職場実習は障害のある方の就業について理解を深める絶好の機会です。すでに障害のある方を雇用されているところはもちろん、これから雇用を始めたいという企業も、一度検討されてみてはいかがでしょうか。

企業視点でバックアップする専門窓口

## 京都障害者雇用企業サポートセンター

センターの  
ご利用はすべて  
**無料**

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館2階

TEL:075-682-8928 FAX:075-682-8949

【ご利用時間】月曜~土曜日/9時~17時(日・祝・年末年始休み)

<http://www.pref.kyoto.jp/jobpark/sksc.html> 京都障害者雇用企業サポートセンター 検索

# 充実した訓練内容に感心。採用ルートとしての有効性を認識。

～京都障害者高等技術専門校の見学会を実施～

10月25日に京都府立京都障害者高等技術専門校の見学会を実施し、企業様6社に参加していただきました。中谷校長先生から専門校の役割や同校における訓練方針やカリキュラムの説明を受けるとともに、訓練生を職業人として自立させることへの熱い思いをうかがいました。授業風景を見学した後、企業担当者と担当の先生方との熱心な意見交換が続き、予定時間をはるかに超える見学会となりました。参加企業からは、「スキル訓練だけでなく社会人としての基礎力養成にも力を注いでいることが理解できた」「多岐にわたる業務についての充実した訓練内容に感心した」「採用ルートの一つとしての有効性を認識した」などの感想をいただきました。

京都府の高等技術専門校では各種職業訓練を行っており、障害のある方を対象とした訓練科も充実しています。

各校の来年度の訓練科をご紹介しますので、是非、採用の参考にしてください。

専門学校	H29年度訓練科※1			
	総合実務科	オフィスビジネス科	キャリア・プログラム科	生産実務科(全寮制)
京都障害者高等技術専門校	○	○	○	
城陽障害者高等技術専門校				○
福知山高等技術専門校	○		○※2	

※1 各科訓練の期間は1年間。(キャリア・プログラム科のみ6か月間)

※2 H29年10月より新設



京都障害者高等技術専門校

## ■ 総合実務科

15歳以上の知的障害のある方を対象にしています。社会人としてのルールやマナー、コミュニケーション力、協調性、体力、持久力、勤労意欲など基礎となる力を身につけるとともに、京都障害者校では「物流、リネン、環境(清掃)・介護、接遇」、福知山校では「販売、清掃、製造」の実技訓練を行い、集中力・判断力・正確性などのスキルを養成し、職業人としての自立を目指します。

就職先業務としては、スーパー・量販店業務、食品加工、組立製造、商品仕分け、清掃、入力作業などです。

## ■ オフィスビジネス科

18歳以上の身体障害のある方を対象にしています。社会人としての基礎力を身につけるとともに、多様な事務系業務に必要な文書作成、ビジネス計算、応接法、事務関連ソフトおよびインターネットなどIT活用能力、さらに簿記・会計の知識、チラシや簡単なポスターが作れるDTPソフトの活用方法を身につけ、事務職種およびビジネス現場での幅広い業務に対応できる人材の育成を目指します。

就職先業務としては、ビジネス現場での幅広い業務に対応できる事務職です。

## ■ キャリア・プログラム科

18歳以上の発達障害のある方を対象にしています。職場を想定した環境の中、グループワークを通して人と関わりながら作業遂行することで、働くペースとなる力を高めます。また、職場実習を複数回実施することにより、実際の職場環境で業務内容への適性を確認し、自分の強み・弱みを明確にして課題への対処法を身につけます。これらの訓練を通して安定した就労を目指します。

就職先業務としては、事務補助、製造、清掃、サービス業務等、訓練生の特性にあった業務です。

## ■ 生産実務科

15歳以上の知的障害のある方を対象にしています。総合実務科と同様に社会人の基礎力の養成に加え、全寮制の特徴を生かしてしっかりと生活習慣を身につけるとともに、紙箱製造、各種組立、物流作業等の実技訓練を行い、集中力・判断力・正確性などのスキルを養成し、職業人としての自立を目指します。

就職先業務としては、各種製造、組立製造、商品仕分け、清掃などです。

専門校の見学やお問い合わせにつきましては、サポートセンターにご連絡ください。

## ■ 平成28年の京都府内の障害者雇用状況(12月13日京都労働局発表)

～民間の実雇用率、法定雇用率達成企業割合ともに過去最高を記録～

京都府の民間企業の実雇用率は2.02%、法定雇用率達成企業の割合は50.6%と過去最高を更新しました。

全国の実雇用率1.92%、達成企業割合48.8%と比較しても高い数値となっています。

京都府が目標とする2.2%達成にむけ、今後とも企業のご協力をお願いいたします。

## 編集後記

オリンピックイヤーで沸いた2016年も終わり、新しい年が始まります。2017年、飛ぶ鳥を落とす勢いで飛躍したいところですが、まずは一日一日の積み重ねが大切です。当サポートセンターでも、障害のある方と企業との新しいマッチングが1件でも増えるように、日々コツコツと活動してまいります。皆さまも新たなチャレンジのひとつとして障害者雇用をご検討ください。